

# I 普通作物

## 1. 水稻

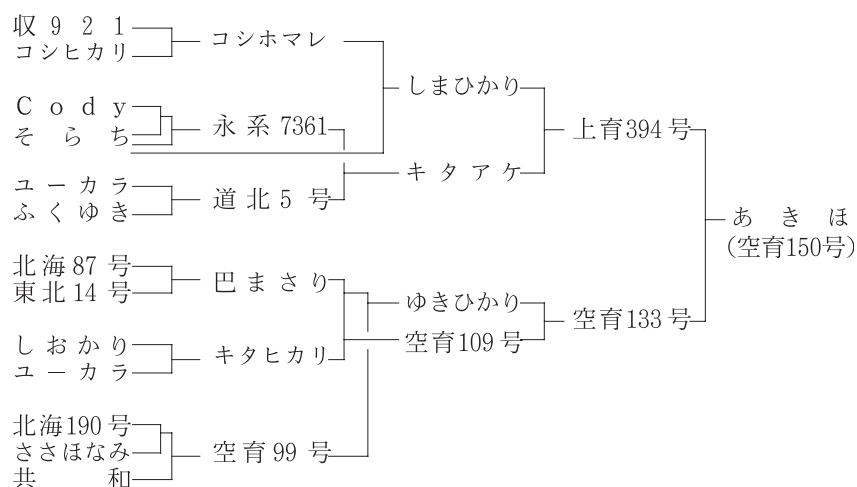
< 梗 種 >

(1) あきほ (系統名 空育150号) 1996年

登録番号：(北海道) 水稻北海道うるち第46号  
(種苗法) 第7646号

セールスポイント

耐冷，良質，良食味で，割粳が少ない。



特性概要

1. 稈長はほぼ「ゆきひかり」および「きらら397」並で，穂長は「ゆきひかり」並ないしやや短い。穂数は「ゆきひかり」より多く，草型は穂数型である。ふ先に稀に短芒を有し，穎色及びふ先色は黄白で，粒着密度は両品種並の中である。割粳の発生は「ゆきひかり」並に少ない。
2. 出穂期は，ほぼ「ゆきひかり」並の中生の早である。成熟期は，「ゆきひかり」並の中生の早である。
3. 障害型耐冷性は「ゆきひかり」並の強である。いもち病真性抵抗性は  $Pi-a, i$  と推定され，いもち病耐病性は葉いもち，穂いもちとも「きらら397」並のやや強である。耐倒伏性は「ゆきひかり」並の中である。収量は，「ゆきひかり」を若干上回り「きらら397」と同程度である。

来歴 本品種は，1988年に北海道立中央農業試験場において，良質，良食味，耐冷，耐病性品種の育成を目標として，「上育394号」を母，「空育133号」を父として人工交配を行い，その雑種後代から育成された。1991年に「空系91380」，1993年より「空育150号」の系統名で各種試験を行い，1996年に優良品種となった。なお，本品種の系譜は次のとおりである。

4. 玄米の粒形は「きらら397」並のやや長，粒大は中である。粒厚は「きらら397」より薄く，玄米品質は「きらら397」並の上下上である。白米のアミロース含有率，蛋白含有率は両品種並で，食味は総合的にみて「きらら397」並である。

栽培適地と奨励態度

上川（士別以南），留萌中南部，空知，石狩，後志，日高，胆振，渡島，檜山及びこれに準ずる地帯で「ゆきひかり」の大半及び「きらら397」の一部に置き換えて栽培する。

栽培上の注意事項は，耐倒伏性が「ゆきひかり」並で不十分なため「北海道施肥標準」を守る。また，「ゆきひかり」，「きらら397」に比べ，乾物重/草丈が小さくなる場合があるので，徒長苗にならないように，育苗基準を遵守し育苗管理に留意する。

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10 a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
中 央 農 試	あ き ほ	8. 7	9.22	59	16.7	473	474	106	22.3	1下	1993~1995
	ゆきひかり	8. 5	9.22	55	16.8	441	448	100	21.1	2上	
	きらら397	8. 9	9.25	59	16.2	528	454	101	23.0	2中上	

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10 a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
上 川 農 試	あ き ほ	7.31	9.18	66	16.7	685	521	103	20.6	1 下	1993~1995
	ゆきひかり	8. 4	9.22	69	17.4	619	508	100	19.6	1中下	
	きらら397	8. 1	9.20	62	15.8	684	517	102	21.6	1中下	
道 南 農 試	あ き ほ	7.31	9.14	69	17.1	587	464	92	21.3	1	1994~1995
	ゆきひかり	8. 2	9.20	73	17.2	529	507	100	20.5	1下	
	きらら397	7.31	9.17	68	16.2	615	502	99	22.1	1	
遺伝資源センター	あ き ほ	8. 4	9.20	59	16.9	576	392	103	21.9	3上	1993~1995
	ゆきひかり	8. 2	9.21	56	16.1	558	382	100	21.3	3中上	
	きらら397	8. 6	9.24	58	16.5	589	376	98	21.4	3中上	
北 海 道 農 試	あ き ほ	8. 8	9.25	71	17.5	547	553	106	21.9	2 上	1993~1995
	ゆきひかり	8. 9	9.26	73	18.1	532	521	100	20.8	2	
	きらら397	8. 8	9.26	67	16.4	605	473	87	22.2	1下	

注) 中苗標準施肥栽培の成績。ただし、北海道農試は成苗標準施肥栽培の成績。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成8年普及奨励ならびに指導参考事項, 1-5 (1996).  
2) 佐々木忠雄 等, 北海道立農試集報, 72, 69-83 (1997).

## (2) ほしのゆめ (系統名 上育418号) 1996年

登録番号: (北海道) 水稲北海道うるち第47号  
(農水省) 水稲農林340号  
(種苗法) 第7645号

### セールスポイント

食味が良く、障害型耐冷性が強い。

**来歴** 本品種は、1998年に北海道立上川農業試験場において、良食味・耐冷性品種の育成を目標に、「あきたこまち」と「道北48号」のF<sub>1</sub>を母とし、「きらら397」を父として人工交配を行った雑種後代から育成されたもので、1991年より「上系 91340」、1993年より「上育 418号」の系統名で各種の試験を行い、1996年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。

### 特性概要

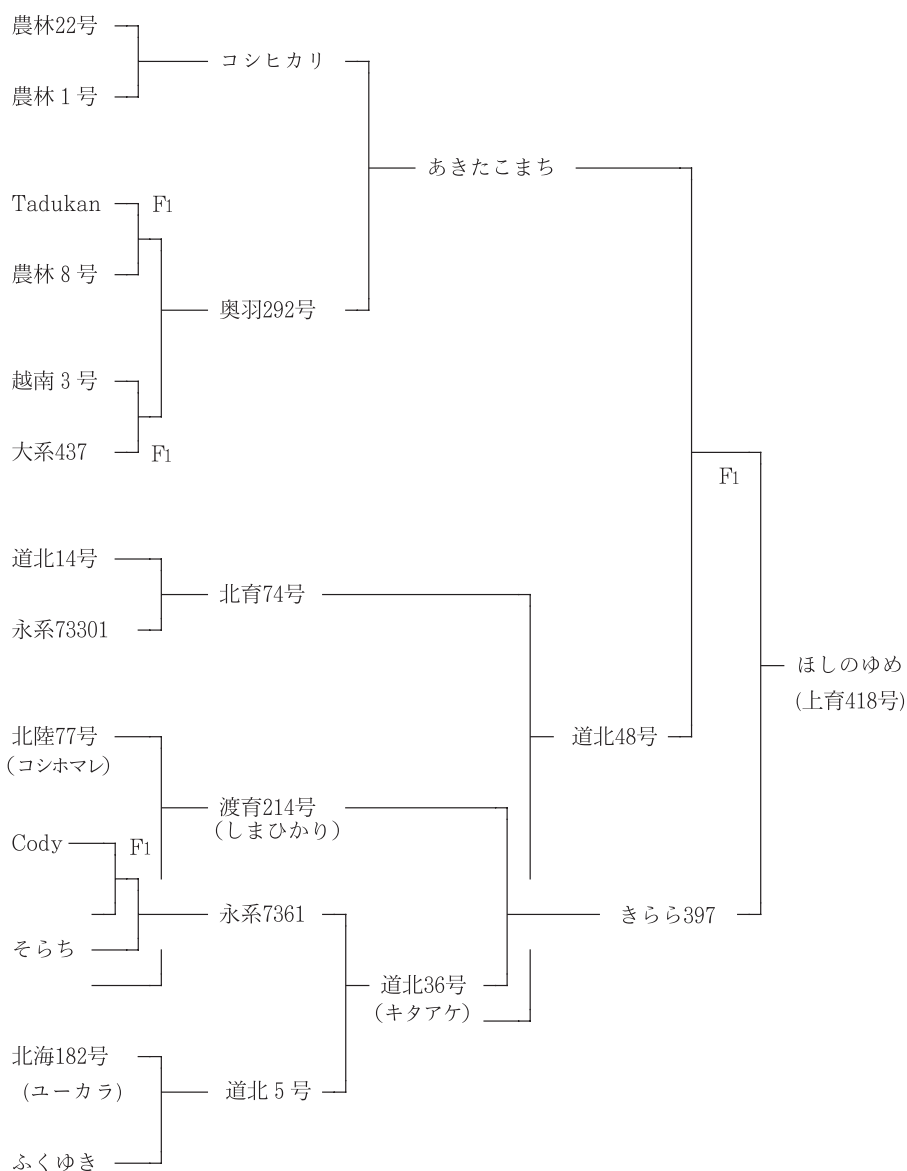
1. 稈長は「ゆきひかり」より短く、「きらら 397」より長い。穂長は「ゆきひかり」より短く、「きらら 397」よりやや短い。穂数は「ゆきひかり」、「きらら 397」より多く、草型は穂数型である。
2. ふ先に少短芒を生じ、穎色、ふ先色は黄白である。粒着密度は中、脱粒性は難で、割粃は「ゆきひかり」、「きらら 397」より多い。
3. 出穂期は「ゆきひかり」より早く、「きらら 397」

並の中生の早、成熟期は「ゆきひかり」、「きらら397」よりやや早い中生の早である。

4. 障害型耐冷性は「ゆきひかり」よりやや強い強である。いもち病真性抵抗性遺伝子型は*Pia, i, k*と推定され、葉、穂いもち圃場抵抗性ともに「きらら 397」、「ゆきひかり」に劣り、それぞれ弱、やや弱である。
5. 玄米収量は「きらら397」にやや劣る。
6. 梗種で、玄米の粒長はやや長、玄米千粒重は「ゆきひかり」より重く、「きらら 397」より軽い。玄米品質は上下で、食味は「ゆきひかり」、「きらら 397」より安定して良好である。

### 栽培適地と奨励態度

上川(土別以南)、留萌(中南部)、空知、石狩、後志、日高、胆振、渡島および檜山各支庁管内に「きらら397」の一部および「ゆきひかり」の一部に換えて栽培する。栽培上の注意は、耐倒伏性が不十分なので、「北海道施肥標準」を守り、多窒素栽培は厳に慎む。中生種としては、いもち病抵抗性が不十分なので、発生予察に留意し適正防除を徹底する。割粃の発生が多いので、斑点米や紅変米などの被害粒発生による品質低下を招かぬよう病害虫の適正な防除に努めるとともに、綿密な圃場管理や適期の刈取りを励行する。種子生産にあたっては、脱ぶ粒が発生しやすいので、種子の取扱い注意事項に十分留意する。



試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10 a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
上 川 農 試	ほしのゆめ	8. 1	9.17	65	15.1	762	506	98	20.6	1下	1993~1995
	きらら397	8. 1	9.20	62	15.8	684	517	100	21.6	1中下	
	ゆきひかり	8. 4	9.22	69	17.4	619	508	98	19.6	1中下	
遺伝資源センター	ほしのゆめ	8. 6	9.20	61	16.1	618	392	104	21.5	3上	1993~1995
	きらら397	8. 6	9.24	58	16.5	589	376	100	22.2	3中上	
	ゆきひかり	8. 2	9.21	56	16.1	558	382	102	20.5	3中上	
中 央 農 試	ほしのゆめ	8. 8	9.23	59	15.8	504	464	102	22.5	1下	1993~1995
	きらら397	8. 9	9.25	59	16.2	528	454	100	23.0	2中上	
	ゆきひかり	8. 5	9.22	55	16.8	441	448	99	21.1	2上	
道 南 農 試	ほしのゆめ	8. 6	9.14	66	15.8	598	481	96	21.3	1	1993~1995
	きらら397	8. 6	9.17	63	15.8	610	502	100	22.1	1	
	ゆきひかり	8. 8	9.20	68	17.1	524	507	101	20.5	1下	

注1) 中苗標準施肥栽培の成績。

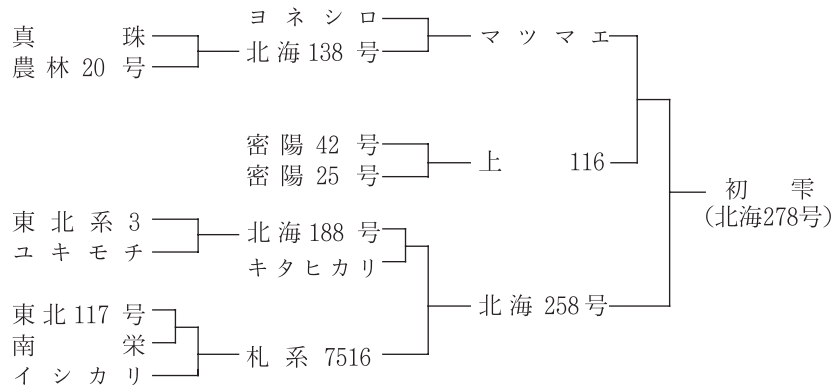
注2) 道南農試の成熟期, 玄米重, 左比, 千粒重, 等級は1994, 1995年の平均値。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成8年普及奨励ならびに指導参考事項, 5-10 (1996).  
 2) 新橋 登 等, 北海道立農試集報. 84, 1-12 (2003).

- (3) 初雫（系統名 北海278号）1998年  
 登録番号：（北海道）水稲北海道うち第48号  
 （農水省）水稲農林354号  
 （種苗法）第7815号

セールスポイント

耐冷性が極強で、多収、大粒の酒造好適米である。



来歴 本品種は、1987年に農林水産省北海道農業試験場において、耐冷性・多収品種の育成を目標として、「マツマエ」と「上116」の雑種第1代を母、「北海258号」を父として、人工交配した雑種後代から育成された。1992年より「札系92104」、1994年より「北海278号」の系統名で各種試験を行い、1998年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。

特性概要

1. 稈長は「きらら397」より長く、穂数は「きらら397」より少なく、草型は中間型に属する。穂長は「きらら397」と同程度で、粒着密度はやや密である。籾は、稀に短芒を生じ、ふ先色、穎色とも黄白である。
2. 出穂期は「きらら397」と同程度、成熟期は3日程度早い、中生の早である。成熟期における止葉の葉身は立ち、草姿は良好である。
3. 障害型耐冷性は極強である。いもち病真性抵抗性遺伝子型は*Pi-tk*と推定され、葉いもち圃場抵抗性はやや強、穂いもち圃場抵抗性は中である。耐倒伏性は中～やや強である。収量性は「きらら397」より高い。
4. 玄米の外観品質は、腹白、乳白および心白の発現は少、色沢はやや濃く中上程度である。玄米の粒厚は「きらら397」より厚く、千粒重は同品種より重く、やや大粒である。
5. カリ含有率は「きらら397」、「ゆきひかり」よりやや高く、鉄含有率は同程度である。精米時の碎米率は

「きらら397」と同程度である。白米の吸水速度はやや遅く、消化性はやや劣るが、フォルモール窒素は「きらら397」より低い。製麴性はさばけが良く、はぜ込みも良好であり、「きらら397」に優る。製成酒の酸度、アミノ酸度は低く、製成酒の官能評価は淡麗で辛口の傾向を示し良好である。

栽培適地と奨励態度

上川（土別以南）、留萌（中南部）、空知、石狩、後志、日高、胆振、渡島及び松山支庁管内の低蛋白米生産が可能な良地帯において、酒造原料米として「きらら397」の一部および「ゆきひかり」の一部に替えて栽培する。

栽培上の注意は、苗が徒長しやすいので育苗管理に留意し、酒造品質の低下を防ぐために多窒素栽培を避ける。割籾の発生が多いので、斑点米や紅変米などの被害粒発生による品質低下を招かないよう病虫害の適正な防除に努める。胴割米が発生しやすいので、適期の刈取りを励行するとともに収穫物の乾燥調整には十分留意する。

試験場名	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a当たり		玄米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
北海道農試	初雫	8.5	9.23	73	17.0	451	586	108	24.1	2中上	1994～1997
	きらら397	8.6	9.26	69	16.2	540	545	100	22.6	1中下	
	ゆきひかり	8.5	9.22	73	17.8	482	564	103	21.2	1下	
中央農試	初雫	8.4	9.24	62	15.8	389	493	98	25.4	2中	1994～1997
	きらら397	8.7	9.26	62	16.4	497	501	100	23.6	1中下	
	ゆきひかり	8.3	9.22	57	16.8	415	471	94	21.7	1中下	
上川農試	初雫	7.30	9.17	71	16.4	570	604	109	23.0	2中上	1994～1997
	きらら397	7.29	9.20	64	16.3	700	553	100	21.6	1下	
	ゆきひかり	8.2	9.22	73	17.4	620	542	98	19.6	1下	

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10 a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
道 南 農 試	初 雫	8. 3	9.17	73	16.3	510	547	104	23.5	2中	1994～1997
	きらら397	8. 2	9.23	68	16.2	609	526	100	22.2	1中下	
	ゆきひかり	8. 4	9.26	61	17.2	554	539	102	20.7	2上	
遺伝資源センター	初 雫	7.31	9.17	64	16.1	499	507	95	23.8	2下	1994～1997
	きらら397	8. 1	9.20	63	16.7	633	533	100	21.8	2中上	
	ゆきひかり	8. 1	9.17	61	16.7	560	499	94	21.6	2上	

注) 中苗標準施肥栽培の成績。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成10年普及奨励ならびに指導参考事項, 1-4 (1998).  
 2) 荒木 均 等, 北海道農研研報, 174,83-97(2002).

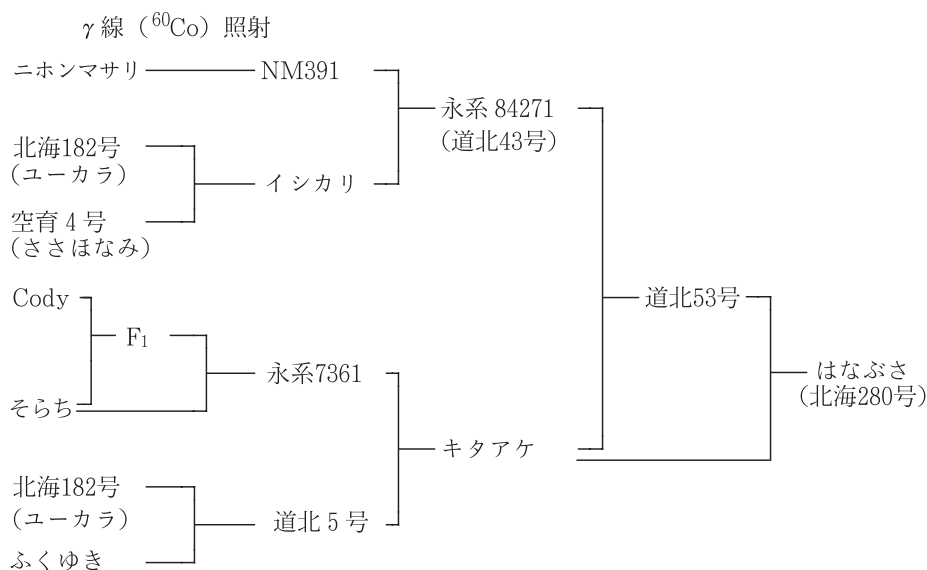
#### (4) はなぶさ (系統名 北海280号) 1998年

登録番号: (北海道) 水稻北海道うち第49号  
 (農水省) 水稻農林355号  
 (種苗法) 第9785号

来歴 本品種は, 1989年に農林水産省北海道農業試験場において, 「道北53号」を母, 「キタアケ」を父として人工交配を行い育成したもので, 1993年より「札系93148」, 1995年から「北海280号」の系統名で各種の試験を行い, 1998年に優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次のとおりである。

#### セールスポイント

低アミロース米で炊飯米の粘りが強く, 良食味である。  
 また, 米菓等での加工適性が優れる。



#### 特性概要

1. 稈長, 穂長とも「彩」, 「きらら397」と同程度で, 穂数は両品種より少なく, 草型は偏穂数型である。
2. 粒着密度は中であり, 籾は稀に短芒を生じ, 穎色およびふ先色は黄白, 割籾の発生は「きらら397」と同程度か少なく, 「彩」よりやや多い。
3. 出穂期および成熟期はともに中生の早に属する。
4. 障害型耐冷性はやや強～強である。いもち病真性抵抗性遺伝子型は *Pia.k* と推定され, いもち病の圃場抵抗性は葉いもちはやや強, 穂いもちは中, 耐倒伏性は中～やや強である。

5. 玄米収量は「きらら397」よりやや劣るが, 「彩」に比べるとやや優る。
6. 粳種で粒形, 粒大, 粒重はともに中。腹白, 心白, 乳白等の発生は少ないが, 色沢が濃く, 光沢が中程度で, 玄米品質は中上。食味は「彩」に比べ白度, つやが劣るが, 総合評価は同程度である。

#### 栽培適地と奨励態度

上川 (士別以南), 留萌 (中南部), 空知, 石狩, 後志, 日高, 胆振, 渡島, 檜山支庁管内およびこれに準ずる良地帯に適応する。これらの地帯の「彩」のすべて, 「き

らら397」の一部に替えて栽培する。栽培上の注意は、初期生育が劣るので、健苗育成、適正植え付け本数の確保などにより生育の促進を図る。適期移植により出穂を

早め、登熟温度を確保する。紅変米の発生がやや多いので適正防除に努めるとともに適期刈取りを励行する。

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10 a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
北海道農試	はなぶさ	8. 9	9.28	70	16.7	465	535	110	22.4	2上	1995～1997
	彩	8.14	10. 7	69	16.5	469	488	100	23.1	2中	
	きらら397	8. 8	10. 1	69	16.3	488	524	107	22.7	1下	
上川農試	はなぶさ	7.30	9.20	69	16.2	695	543	116	20.1	2上	1995～1997
	彩	8. 5	9.27	71	15.7	643	469	100	21.1	2下	
	きらら397	7.30	9.24	67	16.7	714	593	126	21.4	2上	
中央農試	はなぶさ	8. 9	9.30	61	16.1	460	463	120	23.0	2中	1995～1997
	彩	8.14	10. 5	61	16.9	490	387	100	23.3	3中	
	きらら397	8.10	10. 2	63	16.5	516	499	129	23.6	1下	
遺伝資源センター	はなぶさ	8. 3	9.20	65	16.1	629	488	108	21.6	2下	1995～1997
	彩	8. 9	9.26	65	16.7	626	451	100	22.2	3中	
	きらら397	8. 4	9.23	64	16.7	639	511	113	22.2	2中	
道南農試	はなぶさ	8. 5	9.27	71	15.9	545	512	104	21.6	2上	1995～1997
	彩	8. 9	10. 3	70	16.5	553	494	100	22.9	2下	
	きらら397	8. 4	9.29	68	16.0	601	521	105	22.4	1下	

注) 中苗標準施肥栽培の成績。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成10年普及奨励ならびに指導参考事項, 5-8 (1998).  
2) 荒木 均 等, 北海道農業研究センター研究報告, 174, 69-81 (2002).

#### (5) 吟風 (系統名 空育158号) 2000年

登録番号: (北海道) 水稲北海道うるち第50号  
(種苗法) 第9789号

#### セールスポイント

いもち病に強く、大粒で心白発現良好な酒造好適米である。

**来歴** 本品種は、1990年に北海道立中央農業試験場において、道内栽培向酒造好適品種の育成を目標に、「八反錦2号」と「上育404号」の雑種第1代を母、「きらら397」を父として、人工交配した雑種後代から育成された。1994年に「空系94362」、1996年より「空育158号」の系統名で各種試験を行い、2000年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。

#### 特性概要

1. 稈長は「きらら397」、「初雫」並、穂長は「初雫」より長く「きらら397」並、穂数は「きらら397」より少なく「初雫」並で、草型は中間型である。ふ色およびふ先色は黄白で、稀に短芒を有する。割粃の発生は

両品種より少ない。

- 出穂期は「きらら397」より早い中生の早、成熟期は「初雫」より遅い中生の早である。
- 障害型耐冷性は「初雫」に劣り、「きらら397」に比べやや劣るやや強である。いもち病真性抵抗性遺伝子型は*Pi-tk*と推定され、いもち病の圃場抵抗性は、両品種に優り、葉いもちが強で、穂いもちはやや強である。耐倒伏性は両品種に優るやや強～強である。収量は「初雫」「きらら397」並である。
- 玄米の粒形は中、大きさは「初雫」より大きいやや大である。千粒重は「きらら397」より重く、「初雫」並で、心白を多く発現し、腹白の発生がやや多く、玄米品質は「きらら397」に劣り「初雫」と同じ上下である。
- 白米の蛋白質含有率は「きらら397」「初雫」よりやや高い。カリ含有率は「初雫」より低く、「きらら397」並である。酒造適性は、高度精米時の碎米率がやや低く、白米の吸水速度が速く、消化性が良い。酒母やもろみにおける溶解性が良く、原料処理、蒸米および製麴作業性が良好である。

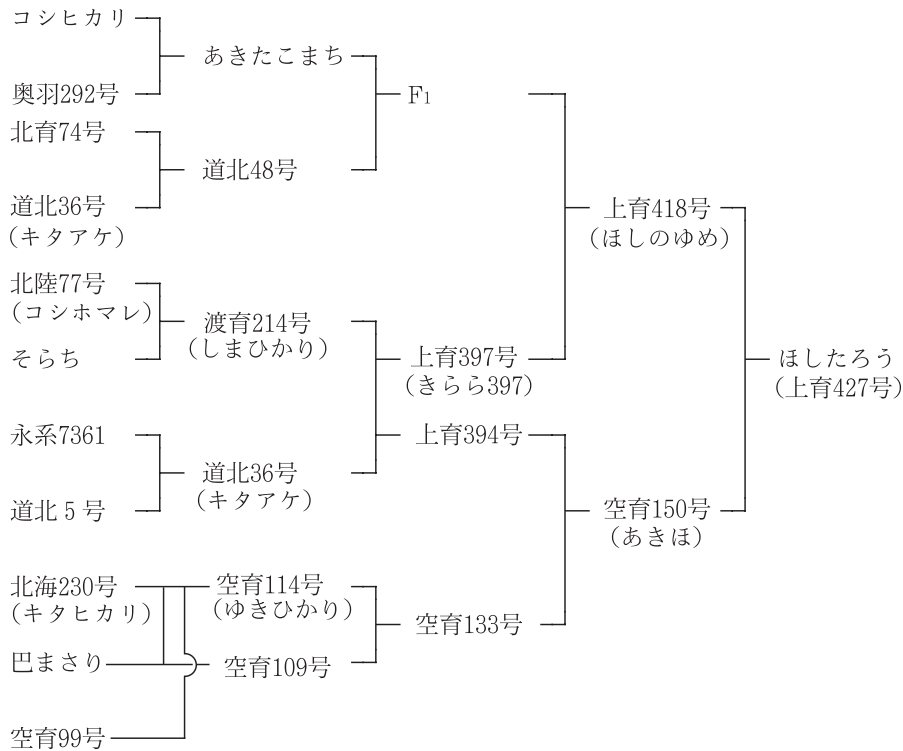




- (6) ほしたろう (系統名 上育427号) 2000年  
 登録番号：(北海道) 水稲北海道うるち第51号  
 (農水省) 水稲農林368号  
 (種苗法) 第11231号

**セールスポイント**

早生，やや多収で，「ほしのゆめ」に近い良食味米である。



**来歴** 本品種は，1993年に北海道立上川農業試験場において，「上育418号」(ほしのゆめ)を母，「空育150号」(あきほ)を父として人工交配を行い育成したもので，1997年から「上育427号」の系統名で各種の試験を行い，2000年に優良品種となった。なお，本品種の系譜は次のとおりである。

**特性概要**

1. 稈長は「あきほ」，「きらら397」並で，「ほしのゆめ」よりやや短い。穂長は「あきほ」，「きらら397」よりやや短く，「ほしのゆめ」並である。穂数は「あきほ」，「きらら397」および「ほしのゆめ」より多く，草型は穂数型である。
2. ふ先に稀に短芒を生じ，穎色，ふ先色は黄白，粒着密度は中，割粃の発生は「きらら397」，「あきほ」より多いが，「ほしのゆめ」よりは少ない。
3. 出穂期は，ほぼ「あきほ」，「きらら397」，「ほしのゆめ」並の中生の早で，成熟期は「きらら397」よりも早く「あきほ」並の早生の晩である。
4. 障害型冷害に対する抵抗性はやや強～強である。いもち病真性抵抗性遺伝子型は *Pia, i, k* と推定され，いもち病圃場抵抗性は葉いもちはやや弱，穂いもちはやや弱～中，耐倒伏性はやや弱～中である。
5. 玄米収量は「あきほ」，「ほしのゆめ」に優り，「きらら397」にはやや劣る。

6. 食味は，「あきほ」に明らかに優り，「きらら397」に比べてもやや優り，ほぼ「ほしのゆめ」に近い良食味である。

**栽培適地と奨励態度**

上川 (風連以南)，留萌 (中南部)，空知，石狩，後志，日高，胆振，渡島および檜山各支庁管内の「きらら397」と「あきほ」の一部に置き換えて栽培する。栽培上の注意は，割粃の発生が多いので，斑点米や紅変米などの被害粒発生による品質低下を招かぬよう病害虫防除を適正に行うとともに，適期刈取りを励行する。種子生産に際しても，割粃が多い場合は脱ぶ粒が発生しやすいので，種子の取扱い注意事項に十分留意する。いもち病抵抗性が不十分なので，発生予察に留意し，適正防除を徹底する。耐倒伏性が不十分なので，「北海道施肥基準」を守り，多窒素栽培は厳に慎む。「あきほ」に比べて障害型耐冷性がやや劣るので，深水灌漑を励行する。



試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
上 川 農 試	ほしたろう	7.28	9.13	65	16.2	801	59.0	103	21.9	2上	1997~1999
	あ き ほ	7.27	9.14	66	17.4	710	57.3	100	21.4	1中下	
	きらら397	7.28	9.18	64	16.5	742	61.4	107	22.1	2上	
	ほしのゆめ	7.28	9.15	66	16.1	778	57.9	101	21.5	2上	
中 央 農 試	ほしたろう	8. 3	9.22	63	16.1	622	50.8	102	23.3	1中下	1997~1999
	あ き ほ	8. 1	9.21	63	17.0	540	49.7	100	22.5	2上	
	きらら397	8. 3	9.27	62	16.9	565	52.4	105	23.4	1下	
	ほしのゆめ	8. 2	9.23	65	15.9	579	48.7	98	22.6	2上	
遺伝資源センター	ほしたろう	8. 2	9.18	64	15.7	738	50.2	98	23.0	1中下	1997~1998
	あ き ほ	8. 1	9.18	65	16.4	665	51.0	100	22.5	1下	
	きらら397	8. 2	9.21	63	16.5	707	56.3	110	22.8	1中下	
	ほしのゆめ	8. 1	9.18	66	15.9	686	49.4	97	22.1	1中下	
道 南 農 試	ほしたろう	7.31	9.19	67	16.3	555	52.0	107	22.2	1中下	1997~1999
	あ き ほ	7.30	9.18	68	17.0	539	48.6	100	21.8	1中下	
	きらら397	8. 1	9.22	65	16.2	596	52.5	108	22.4	1中下	
	ほしのゆめ	7.31	9.18	70	15.8	625	49.6	102	21.5	1下	
北 海 道 農 試	ほしたろう	8. 2	9.17	67	16.2	537	54.9	100	23.1	1中	1997~1999
	あ き ほ	8. 1	9.17	68	17.1	497	54.7	100	22.8	1中	
	きらら397	8. 2	9.20	65	16.4	503	53.0	97	23.4	1中下	
	ほしのゆめ	8. 2	9.20	69	15.7	502	53.6	98	22.9	1中下	

注) 中苗標準施肥栽培の成績。中央農試は1997、1998年が成苗ポット、1999年は紙筒中苗。

参照 1) 北海道農政部編，平成12年普及奨励ならびに指導参考事項，1-5 (2000)。

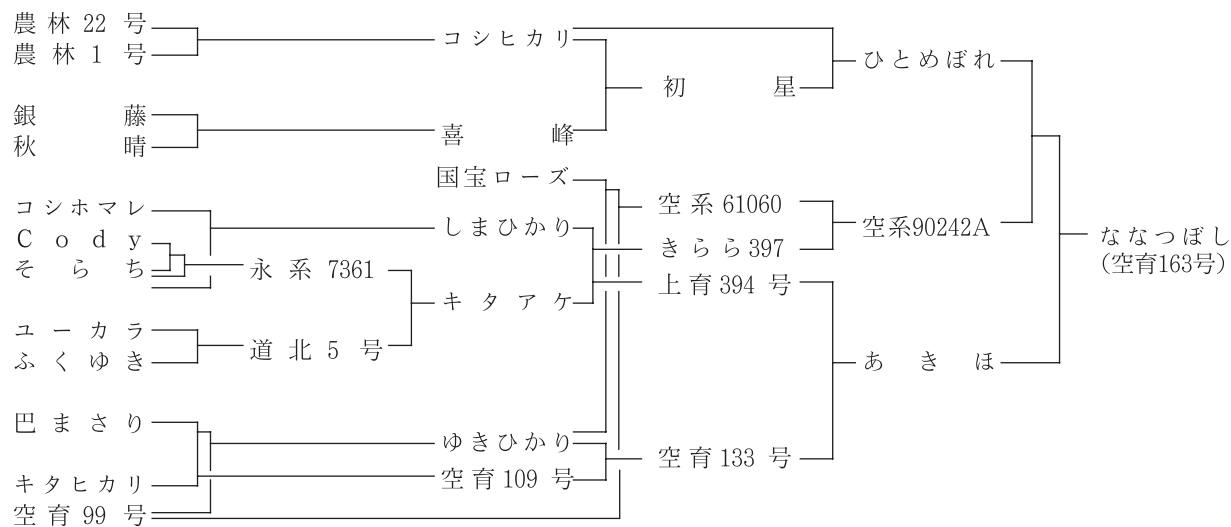
(7) ななつぼし (系統名 空育163号) 2001年

登録番号：(北海道) 水稲北海道うるち第52号  
(種苗法) 第12272号

セールスポイント

良食味で，耐冷性が強く，収量性がやや高い。

来歴 本品種は，1993年に北海道立中央農業試験場において，良質良食味品種の育成を目標に，「ひとめぼれ」と「空系90242A」の雑種第1代を母，「空育150号」（あきほ）を父として行われた人工交配の組合せから，薬培養法により育成された。1995年に「空系95263」，1998年より「空育163号」の系統名で各種試験を行い，2001年に優良品種となった。なお，本品種の系譜は次のとおりである。



## 特性概要

1. 稈長は「きらら397」「ほしのゆめ」よりやや長く、穂長は「ほしのゆめ」より長く「きらら397」並、穂数は両品種より少なく、草型は偏穂数型で、穂揃いが両品種よりやや劣る。ふ色及びふ先色は黄白で、ふ先に短芒を少程度有する。割削の発生は「きらら397」より多く「ほしのゆめ」より少ない。
2. 出穂期、成熟期は「ほしのゆめ」よりやや遅く「きらら397」並の中生の早である。
3. 障害型耐冷性は「きらら397」に優る強である。いもち病真性抵抗性遺伝子型は*Pi-a, i*と推定され、いもち病の圃場抵抗性は、葉いもちが「ほしのゆめ」に優り「きらら397」と同じやや弱で、穂いもちは「きらら397」より劣り「ほしのゆめ」と同じやや弱である。耐倒伏性は、両品種に劣るやや弱である。収量は「ほしのゆめ」に優り、「きらら397」並からやや優る。
4. 玄米の粒形は「きらら397」並のやや長、大きさは「きらら397」より小さく「ほしのゆめ」よりやや小さい中である。粒厚は「ほしのゆめ」より厚く、「きらら397」に近い。千粒重は「きらら397」より軽く、「ほしのゆめ」よりやや軽い。腹白、心白の発生は両

品種並である。玄米白度は両品種にやや劣るものの、白米白度は「きらら397」にやや優り「ほしのゆめ」にやや劣る。玄米品質は「きらら397」「ほしのゆめ」並の上下である。

5. 白米のアミロース含有率、蛋白含有率は両品種よりやや低い。食味は「きらら397」に優り、「ほしのゆめ」並からわずかに優る。

## 栽培適地と奨励態度

上川（中南部）、留萌（中南部）、空知、石狩、後志、胆振、日高、渡島及び檜山各支庁管内において、「きらら397」の一部に替えて栽培する。

栽培上の注意は、耐倒伏性が劣るので施肥標準を守る。いもち病抵抗性が不十分なので発生予察に十分注意し、適期防除に努める。割削がやや多いので、斑点米などの被害粒による品質低下を生じさせないように、病害虫防除を適正に行うとともに、適期刈り取りを励行する。初期分けつが発生がやや劣るので、栽培基準の栽植密度を守り、成苗や側条施肥などの初期生育を促進する栽培法を心がける。

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10 a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
中 央 農 試	ななつぼし	8. 2	9.18	68	16.4	563	540	102	22.4	2上	1998～2000
	きらら397	8. 3	9.20	62	16.6	586	529	100	23.5	1中上	
	ほしのゆめ	8. 2	9.16	66	15.5	628	509	96	22.5	1下	
上 川 農 試	ななつぼし	7.28	9.13	70	16.7	704	652	106	21.6	1中下	1998～2000
	きらら397	7.27	9.13	65	16.3	747	616	100	22.6	1中下	
	ほしのゆめ	7.26	9.10	67	15.7	765	587	95	22.0	1下	
道 南 農 試	ななつぼし	7.31	9.14	72	16.7	579	545	102	21.4	1	1998～2000
	きらら397	7.30	9.16	67	15.8	604	534	100	22.4	1	
	ほしのゆめ	7.29	9.12	72	15.6	659	503	94	21.3	2上	
北 海 道 農 試	ななつぼし	8. 2	9.16	74	16.6	501	621	115	22.4	1中下	1998～2000
	きらら397	8. 2	9.16	66	16.2	510	542	100	23.0	1	
	ほしのゆめ	8. 1	9.14	69	15.7	538	549	101	22.5	1下	

注) 中苗標準施肥栽培の成績。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成13年普及奨励ならびに指導参考事項, 1-3 (2001).  
2) 吉村 徹 等, 北海道立農試集報, 83, 1-10 (2002).

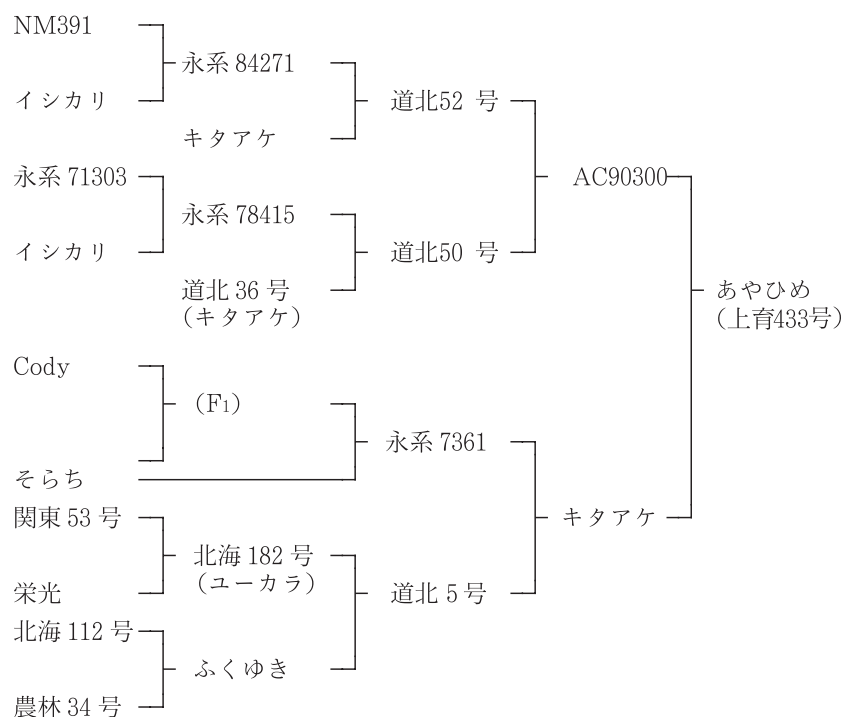
- (8) あやひめ (系統名 上育433号) 2001年  
登録番号: (北海道) 水稲北海道うるち第53号  
(農水省) 水稲農林376号  
(種苗法) 第 号

炊飯することにより、食味が向上する。

来歴 本品種は、1992年に北海道立上川農業試験場において、「AC90300」を母、「キタアケ」を父として人工交配を行い育成したもので、1998年から「上育433号」の系統名で各種の試験を行い、2001年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。

## セールスポイント

低アミロース米で炊飯米の粘りが強く、粳米に混ぜて



### 特性概要

1. 稈長は「はなぶさ」よりやや長く、穂長は「はなぶさ」よりやや短く、穂数は「はなぶさ」より少なく、草型は偏穂数型である。
2. ふ先に稀に極短芒を生じ、穎色、ふ先色は黄白、粒着密度はやや密、割れ粳の発生は「はなぶさ」より多いが「ほしのゆめ」よりは少ない。
3. 出穂期、成熟期は「はなぶさ」より1日程度早い中生の早である。
4. 障害型冷害に対する抵抗性はやや強～強である。いもち病真性抵抗性遺伝子型は*Pia,k*と推定され、いもち病圃場抵抗性は葉いもちは強、穂いもちは中、耐倒伏性は中～やや強である。
5. 玄米収量は「はなぶさ」よりやや優る。

6. アミロース含有率が「はなぶさ」より1%程度低い低アミロース品種で、玄米白度、白米白度が「はなぶさ」より優り、食味が「はなぶさ」より明らかに優る。

### 栽培適地と奨励態度

上川（風連以南）、留萌（中南部）、空知、石狩、後志、日高、胆振、渡島および檜山各支庁管内の「はなぶさ」に替えて栽培する。栽培上の注意は割れ粳の発生が多いので、斑点米や紅変米などの被害粒発生による品質低下を招かぬよう病害虫の適正な防除に努めるとともに、適期刈取りを励行する。稈長がやや長く、耐倒伏性は十分でないので、多肥栽培はさける。粒重が軽いので、登熟期の適正な水管理に努める。

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10 a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
上 川 農 試	あやひめ	7.26	9.10	69	15.7	687	583	113	20.4	1下	1998～2000
	はなぶさ	7.27	9.12	67	16.3	725	514	100	21.6	2下	
	彩	8. 3	9.15	67	16.3	706	566	110	22.5	2下	
	ほしのゆめ	7.26	9.10	67	15.7	765	587	114	22.0	2上	
中 央 農 試	あやひめ	8. 2	9.16	66	15.0	520	476	99	20.9	1中	1998～2000
	はなぶさ	8. 2	9.17	62	16.0	508	483	100	22.8	2中上	
	彩	8. 8	9.22	65	16.5	574	503	104	22.8	2上	
	ほしのゆめ	8. 2	9.16	66	15.5	628	509	105	22.5	1下	
道 南 農 試	あやひめ	7.29	9.12	70	14.8	520	454	96	20.0	1中下	1998～2000
	はなぶさ	7. 3	9.13	69	16.0	526	473	100	21.4	2中上	
	彩	8. 4	9.17	70	16.1	594	523	111	22.5	1下	
	ほしのゆめ	7.29	9.13	72	15.6	659	503	106	21.3	2上	

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10 a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
北 海 道 農 試	あやひめ	8. 1	9.15	73	16.7	512	569	108	20.8	1中下	1998~2000
	はなぶさ	8. 1	9.14	69	16.7	509	525	100	22.1	1下	
	彩	8. 7	9.21	71	16.3	533	573	109	23.3	1中下	
	ほしのゆめ	8. 1	9.14	69	15.7	538	549	105	22.5	1下	

注1) 中苗標準施肥栽培の成績。1998年中央農試は成苗ポット。

参照 1) 北海道農政部編，平成13年普及奨励ならびに指導参考事項，4-6(2001)。

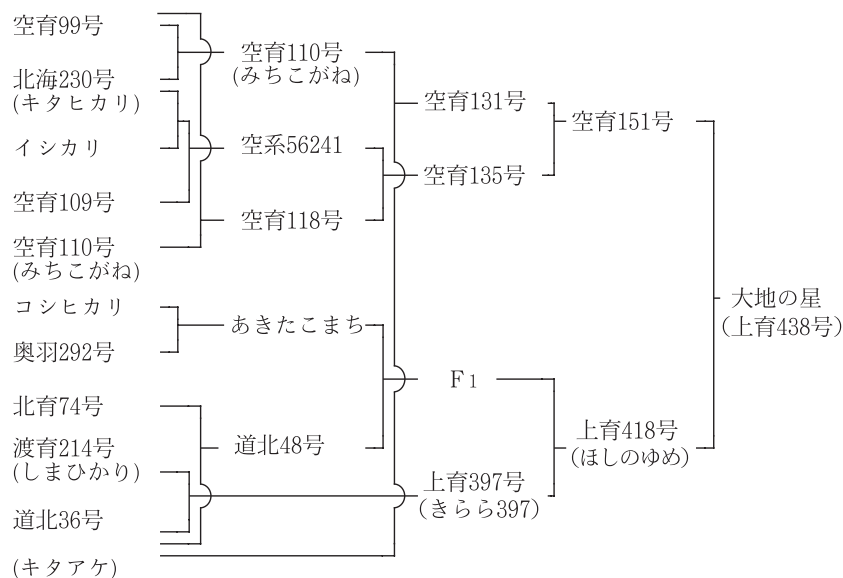
#### (9) 大地の星 (系統名 上育438号) 2003年

登録番号：(北海道) 水稲北海道うるち第54号  
(農水省) 水稲農林391号  
(種苗法) 第 号

**来歴** 本品種は、1994年に北海道立上川農業試験場において、早生・良食味品種の育成を目標に、「空育151号」を母、「上育418号」(ほしのゆめ)を父として人工交配を行った雑種後代から育成したもので、1997年より「上系97243」、1999年より「上育438号」の系統名で各種試験を行い、2003年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。

#### セールスポイント

多収で、耐冷性が強く、加工適性に優れ、冷凍ピラフ等の加工用途に向く。



#### 特性概要

1. 稈長は「あきほ」「きらら397」並かわずかに長く、穂数は「あきほ」「きらら397」より少ない偏穂数型である。千粒重が24~25g程度と重く、割刈の発生は「あきほ」並のやや少で「きらら397」より少ない。
2. 出穂期は早生の中である。成熟期は、中生の早に属し、「きらら397」並かやや早い。
3. 耐倒伏性は中~やや強である。障害型耐冷性は「あきほ」に優り、極強である。いもち病真性抵抗性遺伝子型はPia,Pii,Pikと推定され、葉いもち圃場抵抗性は強、穂いもち圃場抵抗性はやや強である。
4. 玄米収量は、「あきほ」より明らかに優り、「きらら397」と比較しても多収である。品質は「あきほ」「き

らら397」並であるが、検査等級は劣る。

5. 炊飯米の食味は粘りが劣るため「あきほ」「きらら397」に劣る。粘りが少ないことにより加工適性に優れ、冷凍ピラフ等の加工食品に適する。

#### 栽培地域と奨励態度

道東を除く上川、留萌中部以南の全道で、「あきほ」に換えて栽培する。栽培上の留意点として、出穂期が早生で早期異常出穂や苗の徒長の恐れがあるので、成苗移植では適正な管理に努める。初期の分けつ性がやや劣り、穂数確保が難しいので植付け株数は機械移植基準を守る。刈遅れによる品質低下が懸念されるので適期刈り取りを励行する。

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
上 川 農 試	大地の星	7.24	9.13	71	16.5	698	651	116	24.5	2中下	1999~2002
	あきほ	7.25	9.10	65	16.8	749	563	100	21.9	1中	
	きらら397	7.27	9.14	65	16.6	765	601	107	22.5	1中下	
中 央 農 試	大地の星	7.28	9.17	66	16.5	579	594	115	24.7	2下	1999~2002
	あきほ	7.31	9.15	66	16.8	661	517	100	22.0	2中	
	きらら397	8. 3	9.19	64	16.6	677	532	103	22.8	2中上	
北 農 研 セ ン タ ー	大地の星	7.26	9.16	71	16.5	519	581	115	24.4	2下	1999~2002
	あきほ	7.29	9.15	67	17.3	507	504	100	22.2	2中	
	きらら397	8. 1	9.22	67	16.2	579	527	105	22.3	2中上	

注) 中苗標準施肥栽培の成績。

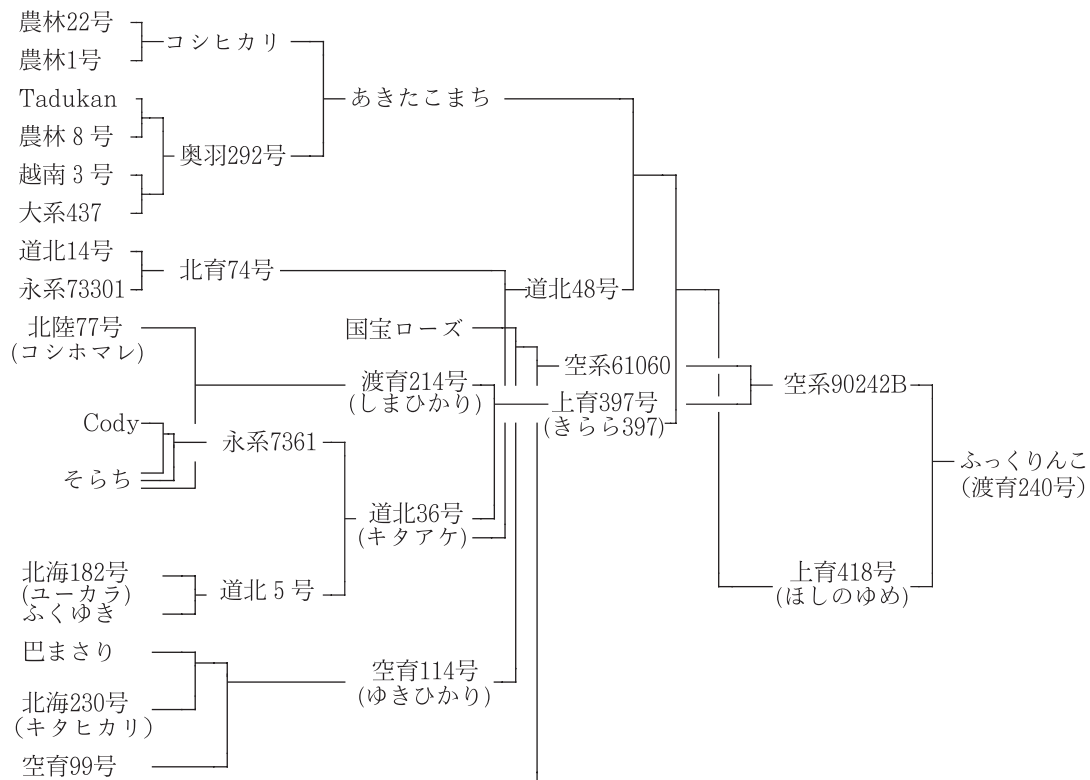
参照 1) 北海道農政部編, 平成15年普及奨励ならびに指導参考事項, 1-3(2003).

(10) ふっくりんこ (系統名 渡育240号) 2003年  
登録番号: (北海道) 水稻北海道うるち第55号  
(種苗法) 第 号

#### セールスポイント

低タンパク, 良食味で, 障害型耐冷性が強い晩生品種である。

来歴 本品種は, 1993年に北海道立中央農業試験場において, 「空系90242B」を母, 「上育418号 (ほしのゆめ)」を父として人工交配を行い, その交雑後代から北海道立道南農業試験場において選抜・育成されたもので, 1997年より「渡系9095」, 1999年より「渡育240号」の系統名で各種の試験を行い, 2003年に優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次のとおりである。



#### 特性概要

1. 稈長は「きらら397」より長く「ほしのゆめ」並, 穂長は「きらら397」よりやや長く「ほしのゆめ」より長い。穂数は「きらら397」より多く「ほしのゆめ」より少なく, 草型は穂数型に属する。

2. ふ色及びふ先色は黄白で, ふ先に少程度の短芒を有する。  
3. 出穂期は「きらら397」より遅い晩生の中, 成熟期は「きらら397」より遅い晩生の早に属し, 登熟は良好である。

4. 穂ばらみ期の障害型耐冷性は「きらら397」より強く「ほしのゆめ」と同じ強である。葉いもち病抵抗性、穂いもち病抵抗性はやや弱である。耐倒伏性は中～やや強である。
5. 玄米収量はほぼ「きらら397」並で「ほしのゆめ」に優る。
6. 玄米の粒形は「きらら397」「ほしのゆめ」並のやや長、粒大は「きらら397」「ほしのゆめ」よりやや大きいやや大である。粒厚は「きらら397」より薄く「ほしのゆめ」並である。千粒重は「きらら397」並で「ほしのゆめ」より重い。腹白の発生は両品種よりやや多いが、心白・乳白の発生、色沢、光沢は両品種並で、

玄米品質はほぼ両品種並の中上である。食味は「きらら397」に明らかに優り「ほしのゆめ」並からやや優る。

#### 栽培適地と奨励態度

檜山南部、渡島中・南部及びこれに準ずる地帯の「きらら397」の一部に置き換えて栽培する。栽培上の注意は、いもち病抵抗性がやや弱いので、その発生に注意し適正防除に努める。倒伏や干ばつにより粒厚が薄くなることがあるので、多肥栽培は避け「施肥標準」を厳守し、登熟期の水管理に留意する。

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10 a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
道 南 農 試	ふっくりんこ	8. 3	9.23	73	16.1	634	54.4	98	22.3	1下	1999～2002
	きらら397	7.31	9.22	69	15.8	599	55.7	100	22.1	2上	
	ほしのゆめ	7.29	9.18	72	15.2	655	51.8	93	21.3	2中上	
	ななつぼし	7.31	9.20	74	16.2	584	54.8	98	21.5	1下	

注) 中苗標準施肥栽培の成績。

参照 1) 北海道農政部編, 平成15年普及奨励ならびに指導参考事項, 4-6 (2003).

## 2. 小麦

- (1) きたもえ (系統名 北見72号) 2000年  
登録番号: (北海道) 小麦北海道秋第14号  
(農水省) 小麦農林149号  
(種苗法) 第11237号

#### セールスポイント

コムギ縮萎縮病抵抗性、穂発芽耐性に優れ、粉色とゆでうどんの色に優れる秋まき品種である。

**来歴** 本品種は、1985年に北海道立北見農業試験場において、「59045 (後の「ホクシン」)」を母、「北系1354」を父として人工交配を行い、育成したもので、1992年より「北系1616」、1994年より「北見72号」の系統名で各種試験を行い、2000年に優良品種となった。本品種の系譜は次のとおりである。

#### 特性概要

1. 叢性は直立で、稈長はやや短、稈の細太は中で「ホクシン」よりやや細く、「チホクコムギ」並、ワックスの多少は少である。葉身の下垂度は「ホクシン」よりやや小さく、穂型は棒状、ふ色は淡黄である。
2. 粒形は中、粒の大小はやや大、粒色は黄褐で、千粒

重はやや大、容積重、原麦粒の見かけの品質は「ホクシン」と同等である。

3. やや早生に属するが「ホクシン」と比較して出穂期で2日、成熟期で2日遅い。
4. 耐倒伏性は「ホクシン」並、耐寒性、耐雪性は「ホクシン」並、コムギ縮萎縮病抵抗性は「ホクシン」より強いやや強、赤さび病抵抗性はやや弱、うどんこ病抵抗性はやや強である。黒目粒は少なく、穂発芽性は「ホクシン」より強くやや難である。
5. 子実重は「ホクシン」並である。
6. 製粉歩留、ミリングスコアは「ホクシン」と同程度かやや高い。粉色は「ホクシン」より優れ、粉質は粉状質、蛋白含量は「ホクシン」並である。製めん適性は「ホクシン」と比較して色は優れるが、粘弾性はやや劣る。

#### 栽培適地と奨励態度

北海道内のコムギ縮萎縮病発生地帯において「ホクシン」に置き換えて栽培する。栽培に当たっては、縮萎縮病抵抗性は「ホクシン」より強いが、免疫的な抵抗性は有していないため、適正な輪作体系の維持に努める。耐